

平成28年度 学力向上を図るための全体計画（様式1）

<p>東京都教育委員会教育目標基本方針</p> <p>基礎的な学力の向上を図り、子供たちの個性と創造力を伸ばす教育を重視するとともに、国際社会に生きる日本人を育成する教育を推進する。</p>	<p>学校教育目標</p> <p>人間尊重の教育を基調にして、思いやりの心をもち、社会の基本的ルールを身に付け、進んで社会に貢献しようとする精神の涵養に努める。 また、確かな学力の向上を図り、子供たちの個性を伸ばす教育を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立した人 ・誠実な人 ・貢献する人 	<p>学習・学力の点からみた学校や地域の実態</p> <p>敷地は広く、四季折々の花と緑に囲まれた恵まれた学習環境にある。 生徒は素直で明るく活発である。学習態度は落ち着いており、授業に真剣に取り組んでいる。</p> <p>しかし、基礎・基本の定着が十分でない生徒も少なからずみられる。全ての生徒に基礎学力を定着させ、補完と発展のための学習を計画していく必要がある。 保護者・地域の学校への関心は、極めて高い。</p>
--	--	--

学校経営方針

鍛える
～ダイヤモンドの原石（生徒）を輝かせる～

- 1 学力の向上
- 2 人権教育の推進
- 3 健全育成の推進
- 4 信頼される学校づくりの推進

各教科の指導の重点

- ・各教科では、基礎的・基本的内容を身に付けさせるとともに、個に応じた指導を取り入れ、補充学習と発展学習の充実を図る。
- ・教育機器を活用した授業、コンピュータを活用した指導、少人数指導による授業においては教材の開発、指導法の改善等に努める。
- ・全教員が研究授業を行い、その結果を生かし、授業改善を推し進める中で、生徒の学習意欲を喚起することで、達成感のある授業を構築していく。
- ・各教科では、到達目標を明確にし、指導と評価の一体化した学習活動に努める。
- ・近隣の小学校と協力し、小中一貫教育を進めていく。小学校の授業形態や指導内容等を把握し、スムーズに中学校の授業に移行できるよう指導法を工夫する。

本校における「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の方法でその定着を図る。

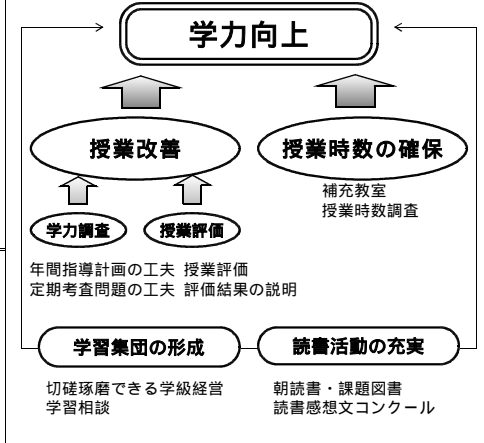
- ・確かな学力を身に付けることを目指し、質的側面と量的側面からアプローチしていく。学力調査等の結果を分析し、それを授業改善に役立てる。
- ・生徒・保護者による授業評価を行い、それを授業改善に役立てる。
- ・量的側面からは授業時数の確保と補充教室の開設を行っている。
- ・学習活動の基盤となる読書活動の充実のために継続的な取り組みを推進していく。
- ・学習規律・学習習慣を身に付けさせる。

道徳教育の指導の重点

- ・生徒との人間的な触れ合いを重視し、基本的な生活習慣の確立を図る。また、生徒同士の望ましい人間関係づくりを支援する。
- ・道徳の時間は、生徒の実態を把握し、年間指導計画に従い、人間としての生き方や人間関係の在り方について指導し、生徒の道徳性・社会性を高める。
- ・道徳授業地区公開講座に積極的に取り組み、教師の指導力向上とともに家庭や地域の道徳力向上に貢献する。また、読書活動と関連付けて教材を発掘し、社会性や人間性の育成を図る。

総合的な学習の時間の重点

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ・自分の考えをまとめ、相手に伝えるように筋道立てて表現する力を育てる。
- ・問題の解決や探求活動に主体的に取組態度を育てる。
- ・他の人の生き方に学び、自己の生き方を追求させる。
- ・少人数による問題解決的な学習、体験的な学習を積極的に取り入れる。指導は学年体制で行う。

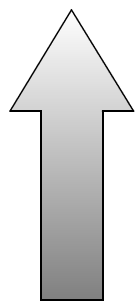


特別活動の指導の重点

- ・生徒と教師の共通体験を通して、一人一人の生徒理解に努め、健全な規範意識と社会性を育てる。
- ・生徒会活動や部活動に積極的に取り組み、生徒の健全育成に努める。
- ・ボランティア活動の機会を設定し、奉仕の心を育て、他を思いやることのできる生徒を育てる。
- ・学校行事、学級活動などあらゆる機会を捉えて、自国の文化・伝統を理解したり、地域社会の一員としての自覚をもたせたりするとともに、国際社会に貢献できる基礎的資質を養う。

キャリア教育の指導の重点

- ・人間としての生き方の指導を通して、生徒が自らの進路について深く考え、進路選択と進路決定が行える力を育てる。
- ・生徒の自己実現に対して積極的な指導と援助を行うために保護者面談・三者面談等を活用し、保護者との連携を強める。
- ・生徒の体験活動を重視する。職業調べ、職業体験、上級学校訪問などを計画的に実施し、「仕事と人生」について考えさせ、3年間を通じたキャリア教育を実践していく。
- ・「高校の先生の話や聞く会」等を開催することで、進路への興味関心を高める。



生活指導の指導の重点

- ・事前に生徒指導上、問題を起こさないよう意識付けを行うとともに、問題の早期発見と解決に努める。
- ・不登校傾向の生徒については家庭との連絡を密にするとともに、SCや関係諸機関と連携し、不登校の改善に努める。
- ・健康に関する指導は学校保健委員会を計画的に実施する。
- ・一人一人の生徒が安心して通学ができ、生き生きとした学校生活を送ることができるような基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・近隣小学校と情報交換をし、新入生の指導に生かしていく。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・各学力調査等の結果と生徒の授業評価を分析し、授業改善を図るための指導方法の改善プランを各教科で立て、実践する。 ・昨年度の成果と課題を分析し、そこに新たな工夫を加えた取組を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の基盤となる読書活動を推進する。 ・各教科の指導計画に指導の重点を加え、新学習指導要領に準じた評価を確立する。 ・2・3年で数学の習熟度別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「小中一貫教育を推進し、9年間にわたる教育の充実を図る」というテーマで校内研修に取組、連携を深めていく。 ・必修教科の研究授業を行い、全教員が少なくとも年間1回以上の公開研究授業を行う。 ・校務PCの使用法について校内研修を設定し、新しいシステムに対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に準じた評価を確立する。 ・評価を生かした授業を実施するために生徒・保護者への説明責任を果たす。 ・各教科観点別評価の到達度(カテゴリーポイント)を校内で統一する。 ・上記の内容を年度当初の教育課程説明会で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校との連携を深める。互いの授業を見合うなど、交流する機会を増やしていく。 ・学校評議員による授業評価を実施する。学校公開日の保護者アンケートを実施する。これら外部評価を授業改善、学校経営に生かしていく。 ・教育課程保護者説明会の充実を図る。 ・毎月学校公開日を設ける。